

資料文献室書棚増設なる



深田久弥

山の文化館だより

令和3年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒九三〇〇六七
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(一)七二一三三三一
FAX 〇七六(一)七二一三三一



資料文献室内部

資料文献室の書棚の増設が完了しました。収蔵図書 of 配置換えを手始めに、作業が始まりました。資料文献室に収納出来ていなかった写真集や、多くの大学ワーカーフォーゲル部の部報などを収納展示する作業もあります。収蔵能力が大幅に増えましたので、更なる内容の充実に努めなければなりません。収蔵したい書籍は、まだまだ沢山あります。皆様のお力添えをお願いいたします。



この「尾瀬全図」にはとても多くの書込みがあります。至仏と燧には二千米以上が薄赤く着



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その14

「夏がくれば思い出す・・・」

尾瀬のあたりの地図を探してみました。ありました「藤原」と「燧岳」です。「藤原」の方は至仏山と尾瀬ヶ原の半分ぐらいが範囲ですが、新しいもので書込みはありません。

「燧岳」を出して見ました。これは、地勢図「日光」の十一番で、表に「尾瀬」と書き込まれていて高いものです。十五番の「藤原」の右(東)半分が貼り合わされていきました。

色されており、戸倉から富士見峠を越え尾瀬

松枝岐小屋に至るルートと、三平峠を越えて松枝岐に至る沼田街道に赤鉛筆のラインが引かれています。富士見峠からアヤマ平(地図には菖蒲平となっています)へのルートにも赤鉛筆のラインがあります。地名や沢の名前がペンで書かれており、沢筋をペンでなぞつてもあります。沢の名前は、久弥たちが至仏山に登り尾瀬を訪れた時のルートである「カリゴヤ沢」に始まり、八十ほどの名が書かれています。これらの沢の名は、現在の二万五千にはほとんどものが記載されていませんが、当時の地形図にはありませんでした。

地形図の書込みに関する山行の一つは、大学時代の大正十五年十月七日から十四日にかけて、友人浜田(田辺)和雄や熊谷太三郎らと、利根川水系榑俣川の狩小屋沢をつめて至仏山に登り、尾瀬ヶ原から尾瀬沼に行き三平峠を越えて帰っています。また、昭和十一年六月九日には、田辺和雄と戸倉から富士見峠を越えて尾瀬に入り、翌日長蔵小屋に至っています。その後、ナデックボから燧岳に登っています。十四日には田辺と別れ一人で焼山峠を越え会津駒ヶ岳に向かったのです。

作品としては左のものがあります。

「至仏山を越えて尾瀬へ」＝『わが山山』

「尾瀬の印象」＝『山岳展望』

「六月の尾瀬」＝『山の幸』

「会津駒ヶ岳」＝『山岳展望』

深田久弥没後五十年あれこれ

没後五十年を記念した行事、企画がいくつも実施された。三月二十一日には大聖寺で九山忌が、四月十七〜十八日には葦崎で記念フォーラムと深田祭が行われた。山の文化館では「追憶」と題して没後五十年展を行った。現在は、五十年前に日本山岳会年次晩餐会で行われた「この一本展」の再現をしている。四月二十五日に予定していた久弥祭はコロナ感染症の蔓延で延期となってしまうが、十月末には実施したいと準備している。

没後五十年に関して、新聞や雑誌でも注目された。知る限りではあるが、山梨日日新聞、日刊工業新聞、朝日新聞などで関連の記事やコラムが掲載された。また、『山と溪谷』は新年号で深田久弥を取り上げ、「日本百名山」特集を組んだ。通常より発行部数は多かったのに瞬く間に売り切れ、四月には「日本百名山」特集だけの臨時増刊号が出た。



再現 この一本展

米原市伊吹山文化資料館では、深田久弥没後五〇年記念として「近代登山と伊吹山」と題して企画展を開催中である。また軽井沢の堀辰雄文学記念館では、企画展「堀辰雄の品々―新収蔵品を中心に―」が開催されている。そのなかで、没後五十年にあたる深田久弥との長年の交流について紹介している。また、福井県ふるさと文学館では、十月三十日から「深田久弥没後五十年記念展」が予定されている。

この一冊

『深田久弥山の文学全集』全十二巻に、それぞれ録月報と題するB6判八頁ほどの小冊子がついていました。

そこには深田久弥氏と深い繋がりがあった著名な文学関係の方々、例えば今 日出海、井上 靖、森山 啓など、また山岳関係の方々であれば藤島敏雄、望月達夫、今西錦司等々、そして郷土の方々達と、四十名近くの方がいずれも突然の死を悼んでの思い出の記事を綴られています。

最後の十二集の冊子は、志げ子夫人の「夫はまことに倅せな星の人だと言う他はない。さつとあの世で「どうも、ありがとう」といれながら満足していることであろう。」という言葉で締めくくられています。

小冊子であるが故に、どの冊子の頁を読んでもみても読みやすく、久弥氏の飾らない普段の姿が浮かんできても親しみをおぼえました。

● 間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。
(聴講無料)
午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

■ 八月二十二日(日)

演題…白山開山の歴史
講師…白峰林西寺住職 加藤 彰教氏

■ 九月十二日(日)

演題…私のふるさと
講師…二枚田 昇氏

● 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。
(参加無料)

九月十七日(金)

『日本百名山』より「早池峰山」

- 場所 深田久弥山の文化館
- 時間 午後一時半より三時

* 詳細はホームページをご覧ください

● 編集後記

梅雨空にアジサイが喜び、畑のキュウリをポリポリ食べながら、夏の訪れを感じます。
ワクチン接種、痛かった筋肉注射にコロナ禍の鎮まりを願います。
(S・Y)

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>